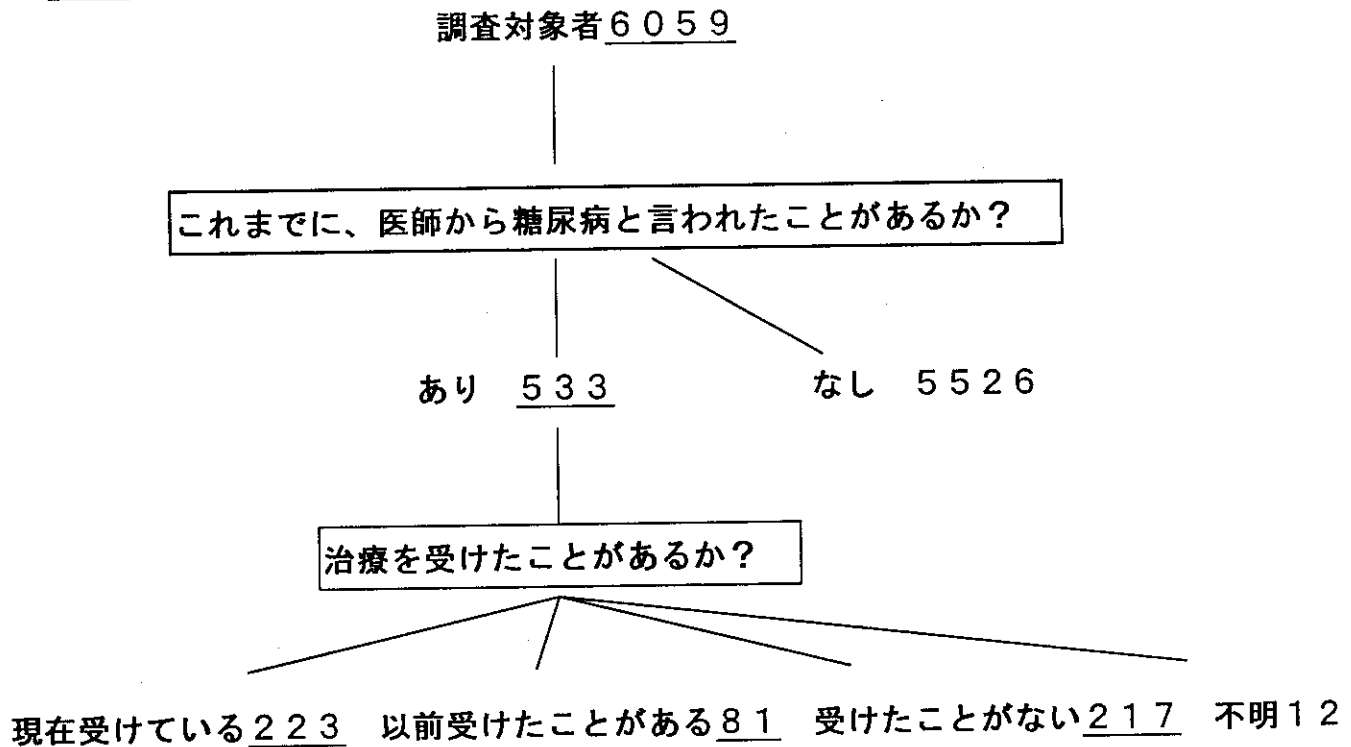


#### 4. 糖尿病に関する医療サービスの状況

ここでは、調査対象者6,059人に対して行ったアンケート調査の中で、医療サービスの状況についての質問結果を中心にまとめた。

##### アンケートの内容



更に、具体的治療内容、眼底検査の有無、合併症の有無等を中心に解析を行った。

注：「これまでに医師から糖尿病といわれたことがある人」とは、「境界型」、「耐糖能異常」等を含む。

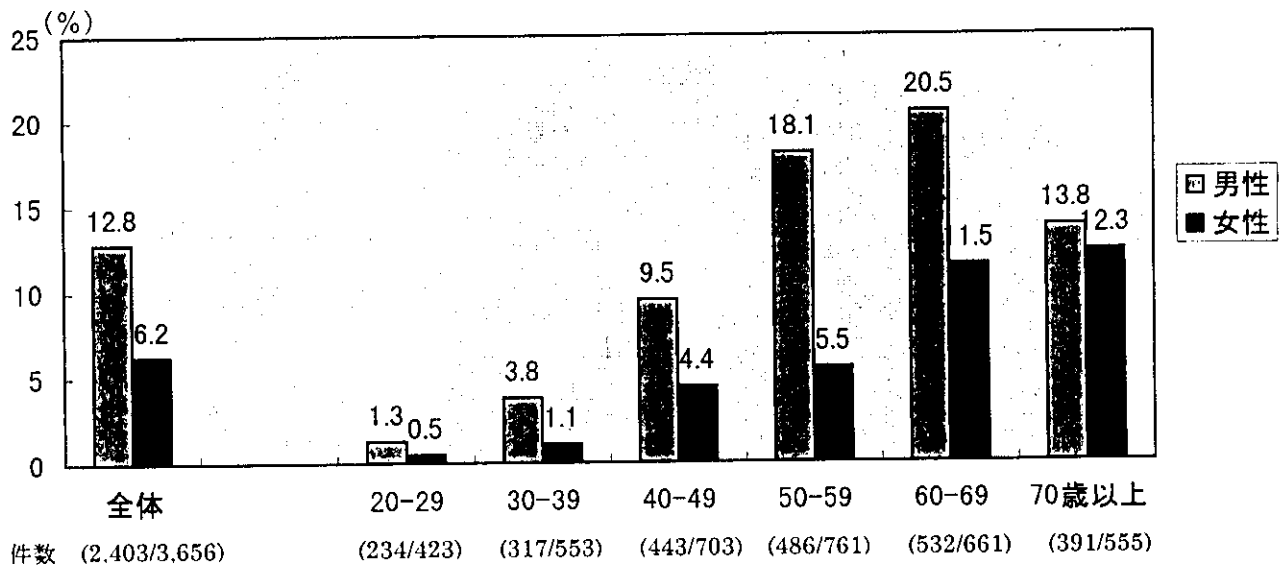
#### 4-1.糖尿病診断の状況

問3.これまでに医師から糖尿病といわれたことがありますか？

- 1.なし
- 2.あり

アンケートで、「これまでに医師から糖尿病（「境界型」、「耐糖能異常」等を含む）といわれたことがある」と答えた人の割合は、男性12.8%、女性6.2%みられ、男女ともに年齢階級が上昇するに従って割合が上昇する傾向がみられる。また、全年齢層で女性より男性の割合が高い傾向がみられる（図15）。

図15.医療機関において糖尿病と診断された人の割合（性、年齢階級別）



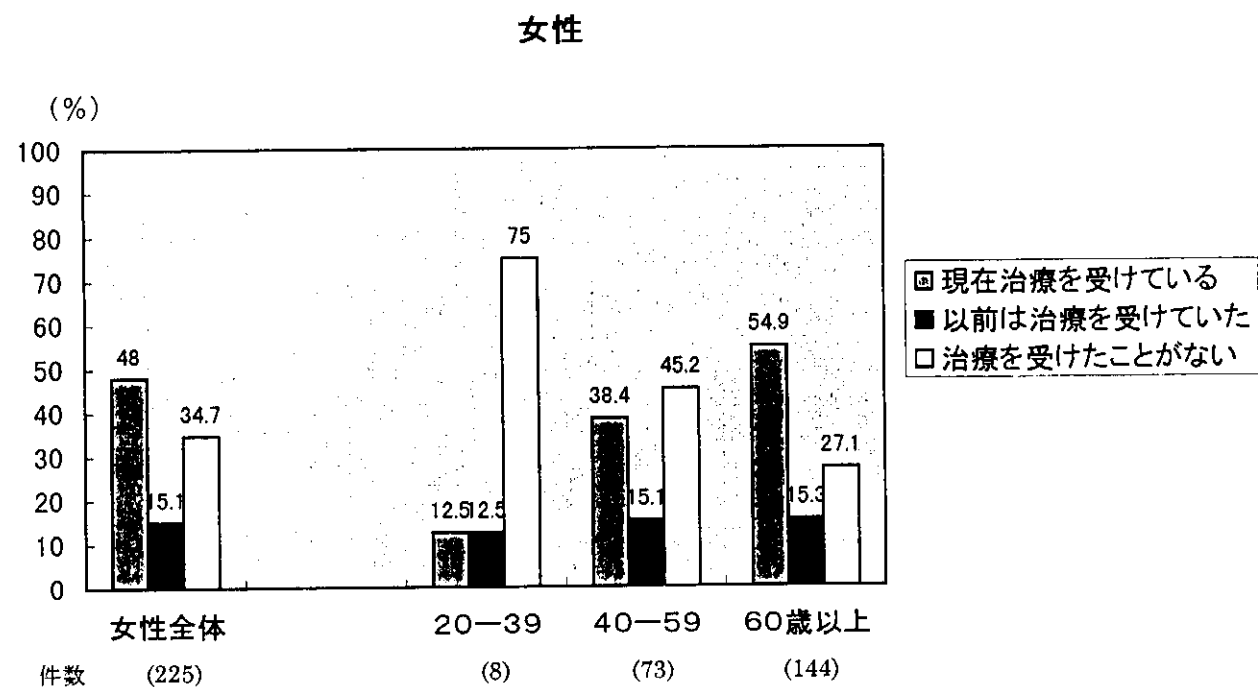
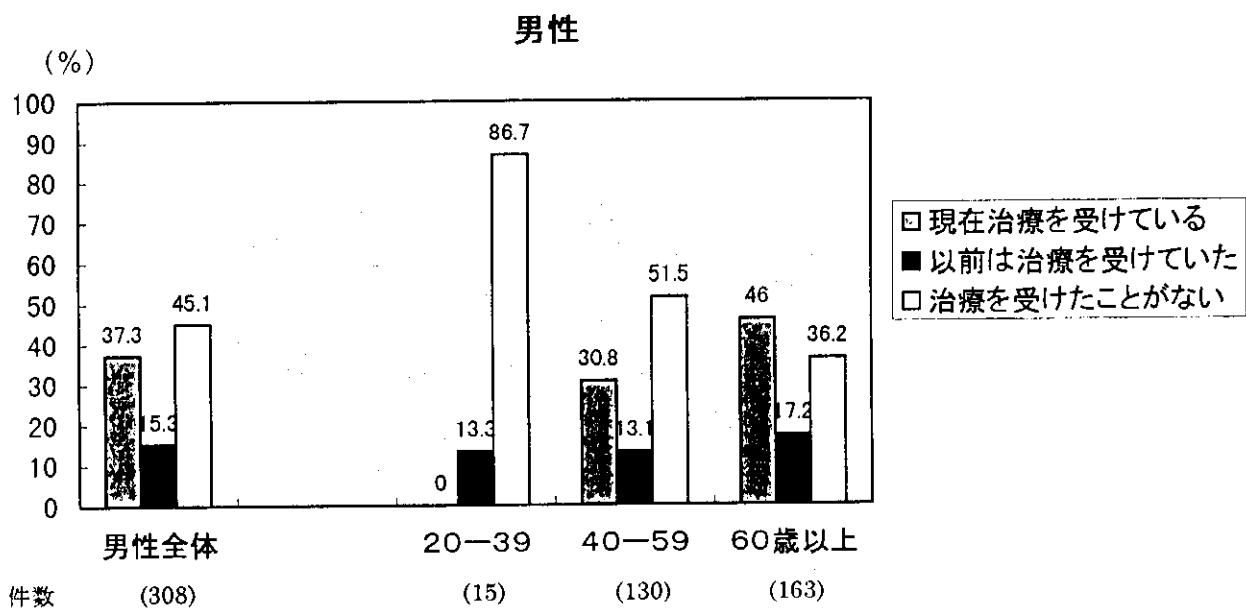
#### 4-2. 糖尿病と診断された人の治療の状況

(問3で「あり」の人に対して) 糖尿病の治療を受けたことがありますか？

1. 現在受けている
2. 以前に受けたことがあるが、現在は受けていない
3. ほとんど治療を受けたことがない

アンケートで、「これまでに医師から糖尿病といわれたことがある」と答えた人の治療の状況は、図16のとおり。男女とも20-39歳において、「ほとんど治療を受けたことがない」人の割合が高い。

図16.糖尿病と診断された人の治療状況（性、年齢階級別）



#### 4—3. 糖尿病の治療内容

(治療有無の質問で1または2と答えた人に対して)どのような治療を受けましたか? 受けたことのある治療にすべて○をつけてください。

1. 食事指導
2. 運動指導
3. 飲みぐすり
4. インスリン注射
5. その他

アンケートで、「これまでに医師から糖尿病といわれたことがある」と答えた人の治療内容は、表2のとおり。「現在治療を受けている」人では、食事指導の割合が76.7%、運動指導は45.3%、薬物療法は67.7%となっている。一方「以前に治療を受けていたが、現在は受けていない」人では飲み薬を飲んでいた人が32.1%となっており、「現在治療を受けている」人に比べて低い割合を示した。

表2. 治療の内容 (治療状況別)

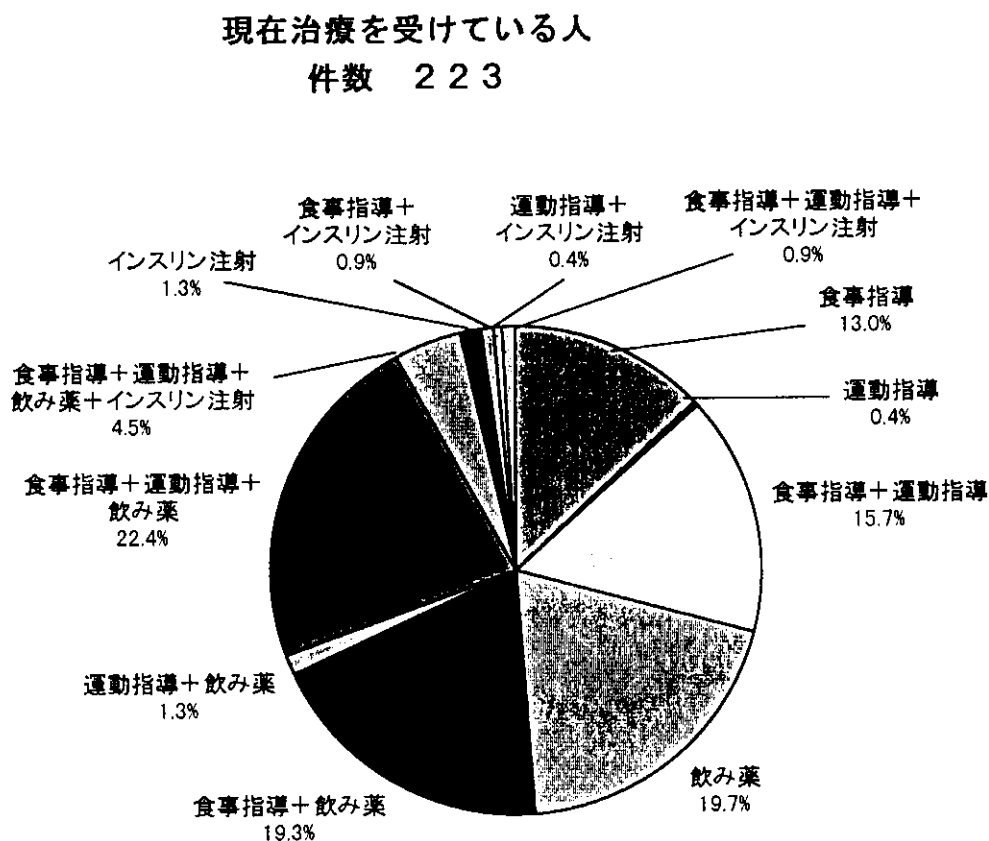
	合計	食事指導	運動指導	飲み薬	インスリン注射	その他	不明
合計	304 (100.0%)	231 (76.0%)	125 (41.1%)	177 (58.2%)	21 (6.9%)	2 (0.7%)	4 (1.3)
現在治療中	223 (100.0%)	171 (76.7%)	101 (45.3%)	151 (67.7%)	18 (8.1%)	1 (0.4%)	-
以前治療	81 (100.0%)	60 (74.1%)	24 (29.6%)	26 (32.1%)	3 (3.7%)	1 (1.2%)	4 (4.9%)

(複数回答)

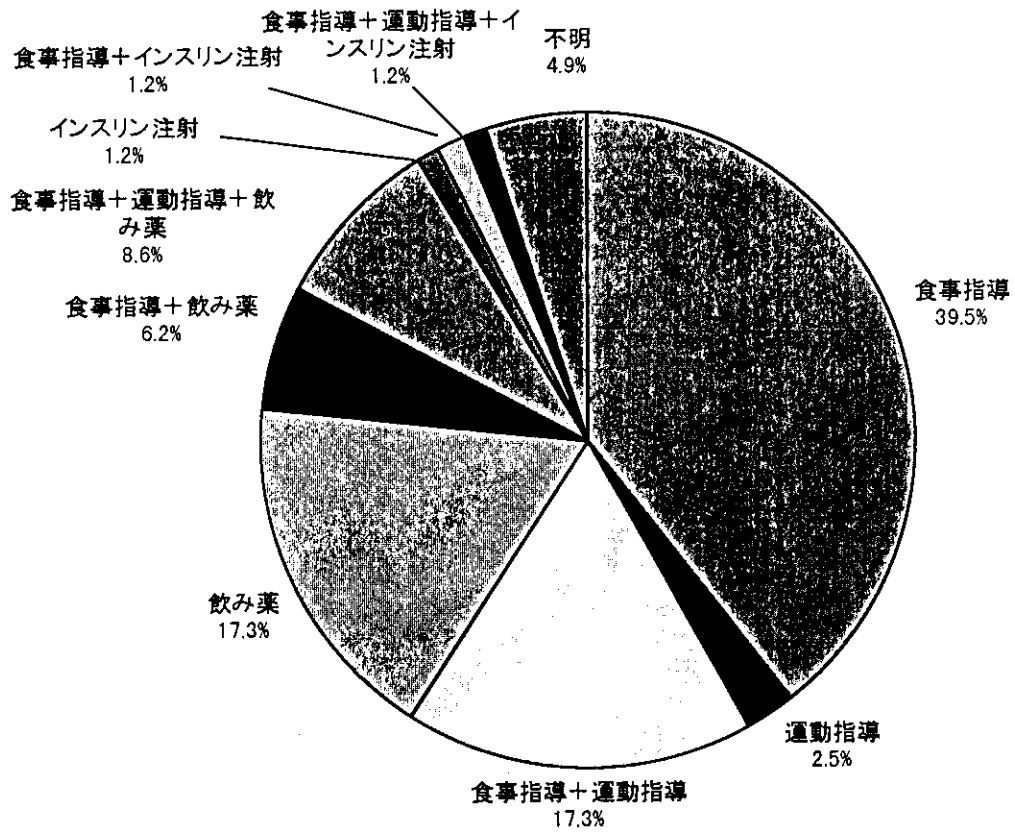
#### 4—4. 糖尿病治療の詳細な内容

治療法の詳細な内容を見ると、「現在治療を受けている」人では、複数の治療を組み合わせる割合が高く、「以前に治療を受けたことがあるが、現在は受けていない」人では、食事指導単独の人の割合が高い。また、「現在治療を受けている」人と「以前治療を受けたことがあるが、現在は受けていない」人ともに、食事療法や運動療法なしで飲み薬単独の人の割合が高くなっている（図17）。

図17. 糖尿病治療の詳細な内容



以前治療を受けたことがあるが、現在は受けていない人  
件数 81

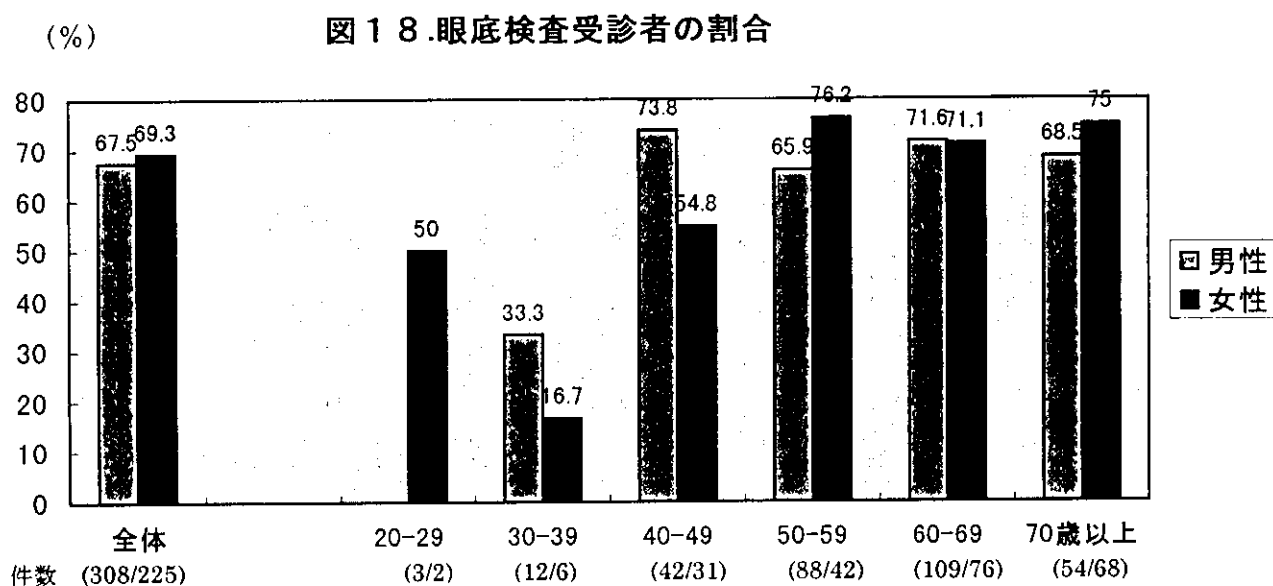


#### 4-5.糖尿病診療における眼底検査の状況

(問3で「あり」の人に対して)眼底検査(眼の奥を調べる検査)を受けたことがありますか?

1. なし
2. あり

眼底検査の受診状況については図18のとおり。男性、女性共に60%以上が眼底検査を受けている。



(注: 20歳代、30歳代については、件数が少ないが、参考のため記載した。)



#### 4—6.糖尿病状況別の合併症の状況

(問3で「あり」の人に対して) 次の合併症にかかっていますか？

- |                               |       |       |
|-------------------------------|-------|-------|
| (1) 神経障害 (手足がしびれる、感覚がにぶくなるなど) | 1. あり | 2. なし |
| (2) 網膜症 (眼底に出血がある、視力の低下など)    | 1. あり | 2. なし |
| (3) 腎症 (尿にたんぱくが出ているなど)        | 1. あり | 2. なし |
| (4) 足壊疽                       | 1. あり | 2. なし |

糖尿病の代表的な合併症は、神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症などである。神経障害、網膜症、腎症それぞれが合併している割合を、

「糖尿病が強く疑われる人」

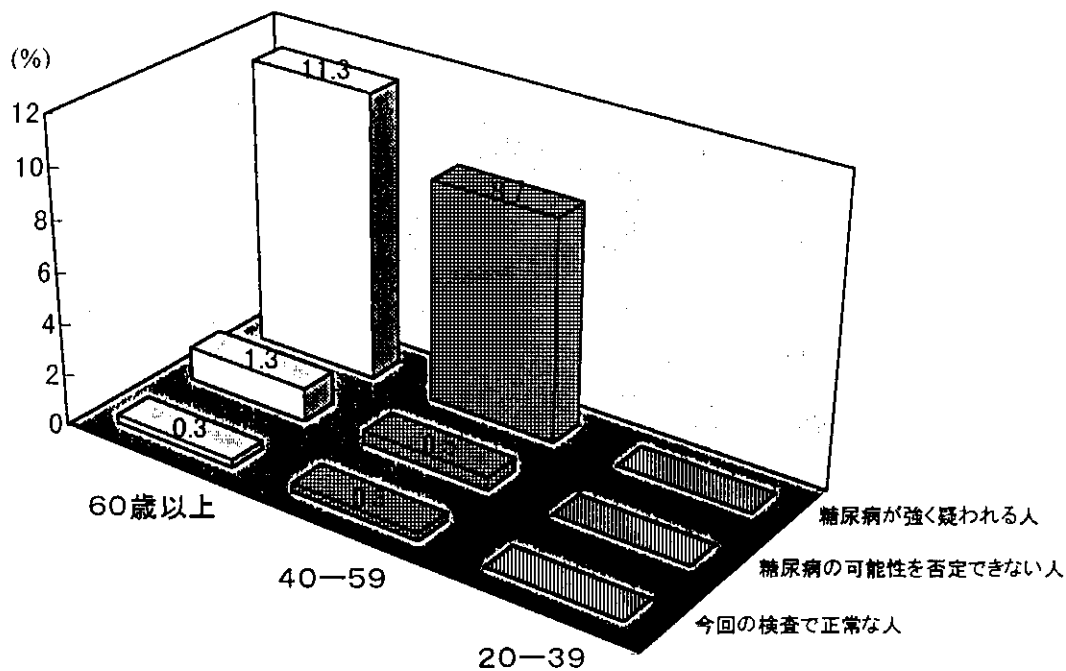
「糖尿病の可能性を否定できない人」

「今回の調査で正常な人」

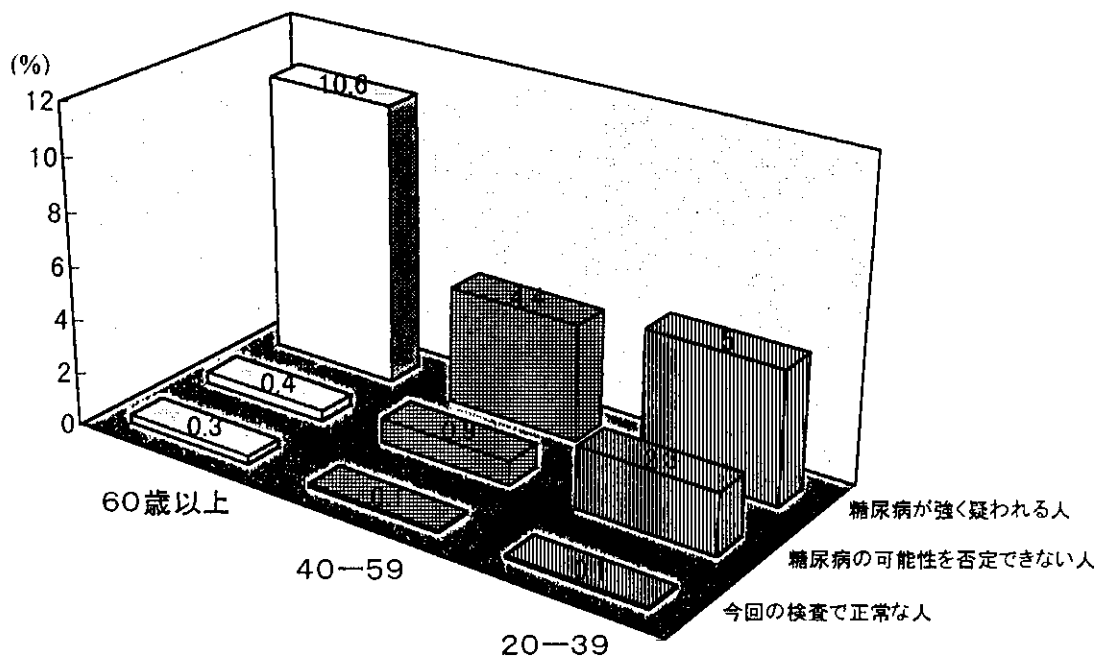
の3つのグループで比較した(図19)ところ、「今回の調査で正常な人」や「糖尿病の可能性を否定できない人」と比べて「糖尿病が強く疑われる人」で、神経障害、網膜症、腎症の症状が出現している割合が高い傾向がみられる。

図19. 糖尿病の状況別合併症の割合

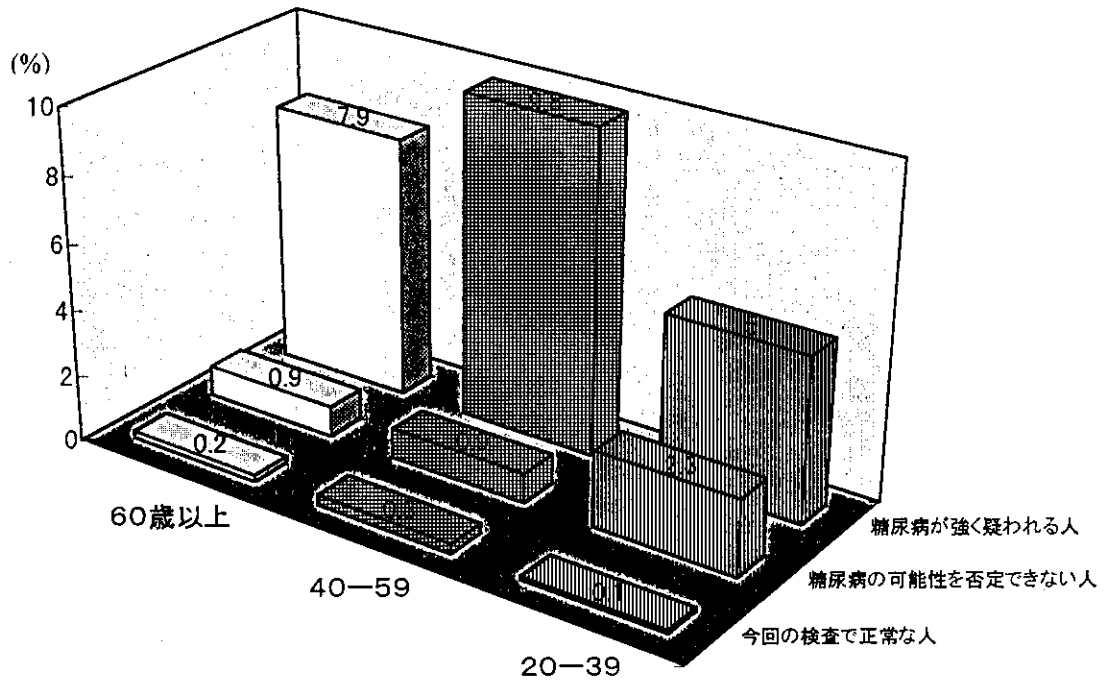
神経障害



網膜症



# 腎症



#### 4-7. 治療状況別の糖尿病合併症の状況

アンケートで、「これまでに医師から糖尿病といわれたことがある」と答えた人について、治療状況別に合併症の状況をみると（表3）、現在治療を受けている人の中でも、ヘモグロビンA1cが6.1以上の人の方が、合併症の割合が高い傾向がみられる。

表3. 「糖尿病といわれたことがある」人の合併症の状況（治療状況別）

糖尿病治療	ヘモグロビンA1c	神経障害	網膜症	腎症	えそ 足壊疽
現在受けている (件数 223)	6.1以上 (件数 164) (100%)	38人 (23.2%)	28人 (17.1%)	26人 (15.9%)	1人 (0.6%)
	6.1未満 (件数 59) (100%)	6人 (10.2%)	8人 (13.6%)	5人 (8.5%)	0人 (0%)
現在受けていない (件数 298)	6.1以上 (件数 90) (100%)	5人 (5.6%)	3人 (3.3%)	11人 (12.2%)	0人 (0%)
	6.1未満 (件数 208) (100%)	10人 (4.8%)	8人 (3.8%)	15人 (7.2%)	1人 (0.5%)

## 5. 糖尿病の状況別にみた併発症の状況

### 5—1. 脳卒中と心臓病併発の状況

質問4. 医師から次の病気にかかっているといわれたり、治療を受けたりしたことがありますか。

- |                     |       |       |
|---------------------|-------|-------|
| (1) 心臓病（狭心症、心筋梗塞など） | 1. あり | 2. なし |
| (2) 脳卒中（脳出血、脳梗塞など）  | 1. あり | 2. なし |

糖尿病では、網膜症や腎臓などの小血管障害とともに、心臓や脳などの大血管障害にも関連する。

心臓病、脳卒中それぞれに、かかっているといわれたり、治療を受けたりしたことがある人の割合を、

「糖尿病が強く疑われる人」

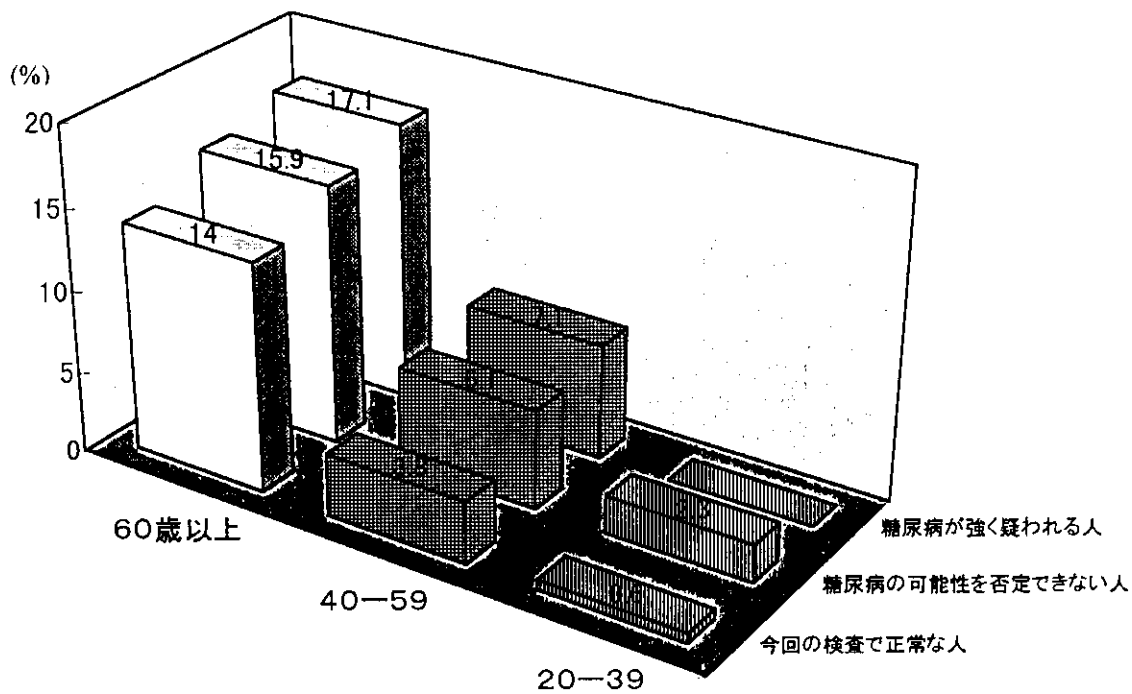
「糖尿病の可能性を否定できない人」

「今回の調査で正常な人」

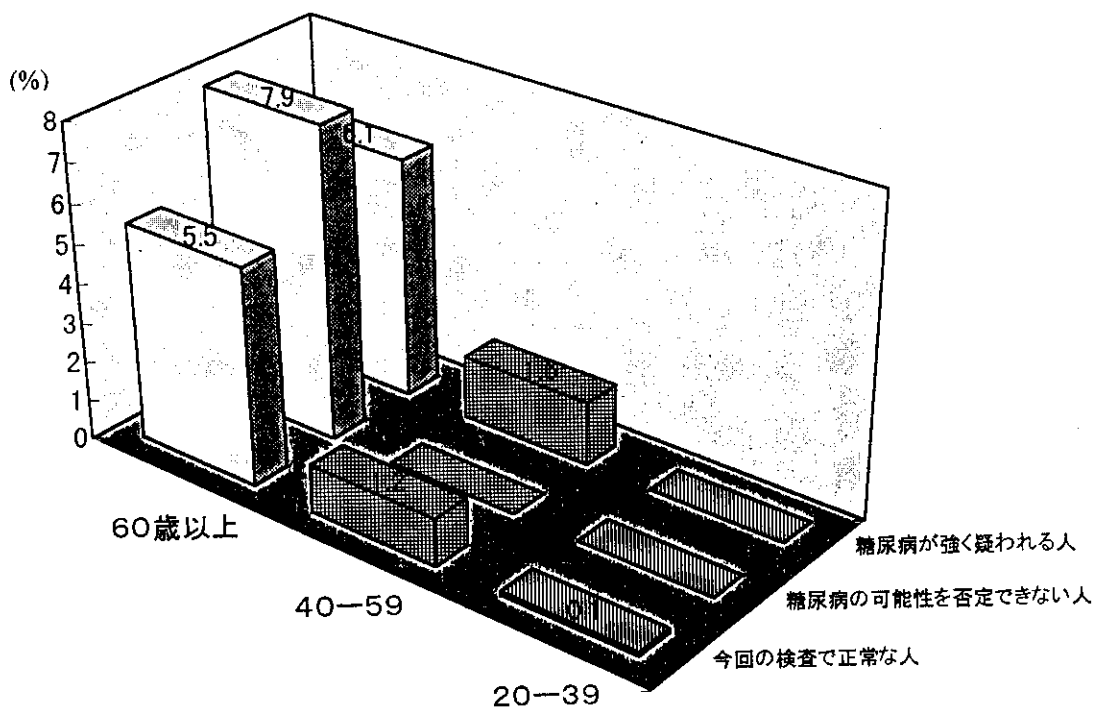
の3つのグループで比較したところ（図20）、心臓病では、「糖尿病が強く疑われる人」のグループで高い傾向がみられた。また、心臓病、脳卒中ともに、加齢によって、合併の割合が上昇する傾向がみられた。

図20.糖尿病の状況別の心臓病及び脳卒中の合併の割合

心臓病



# 脳卒中



## 5—2. 高血圧、高脂血症併発の状況

高血圧症、高脂血症の割合については、国民栄養調査による。

高血圧症、高脂血症のある人の割合を

「糖尿病が強く疑われる人」

「糖尿病の可能性を否定できない人」

「今回の調査で正常な人」

の3つのグループで比較したところ（図2 1， 2 2）、高血圧症、高脂血症ともに、「糖尿病が強く疑われる人」での併発の割合が高い傾向がみられる。また、高血圧に関しては、加齢によって、併発の割合が上昇している。



図 2 1 .糖尿病の状況別の高血圧症併発の割合

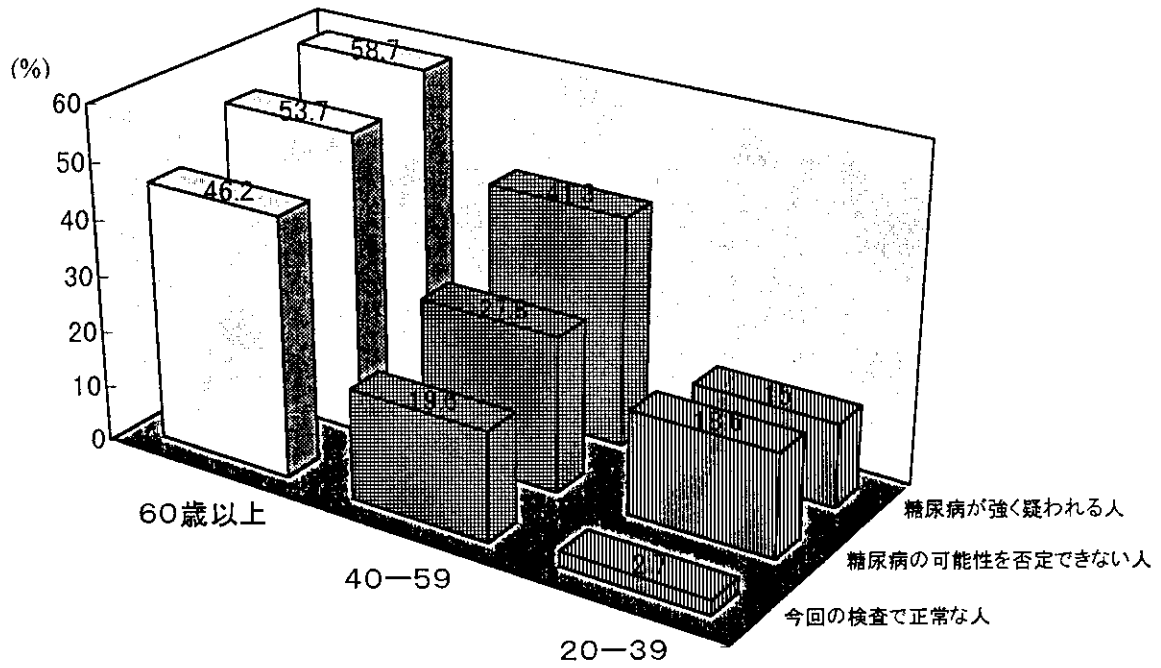
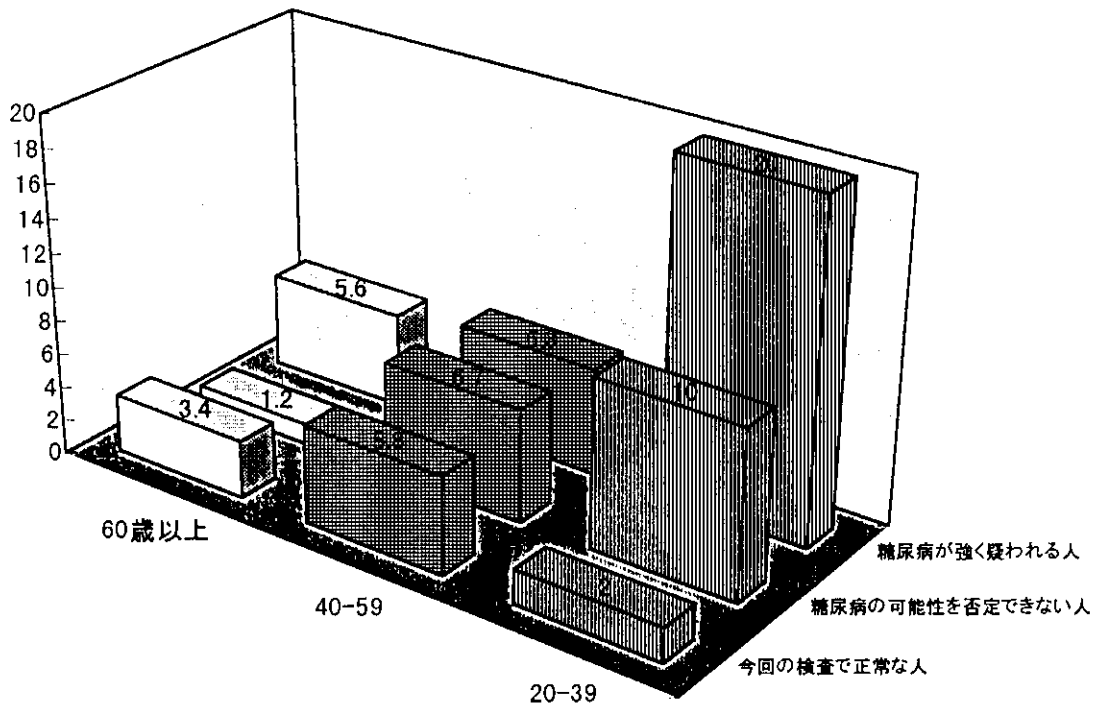


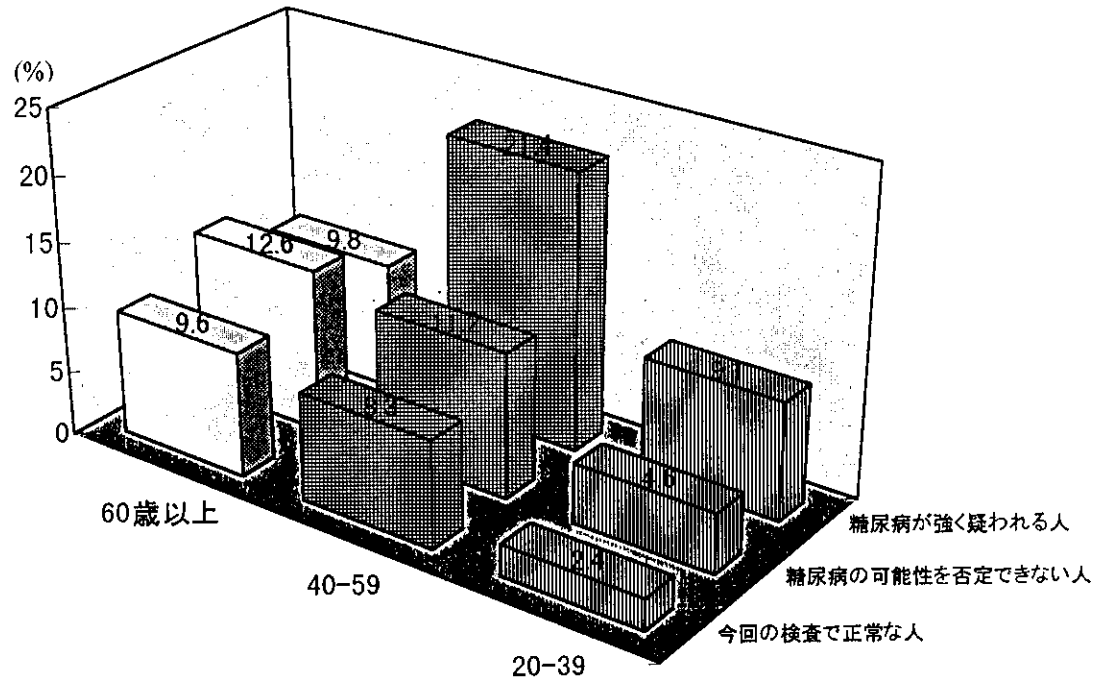
図 2 2 .糖尿病の状況別の高脂血症併発の割合

総コレステロール高値者の割合（食後3時間以上）

男性



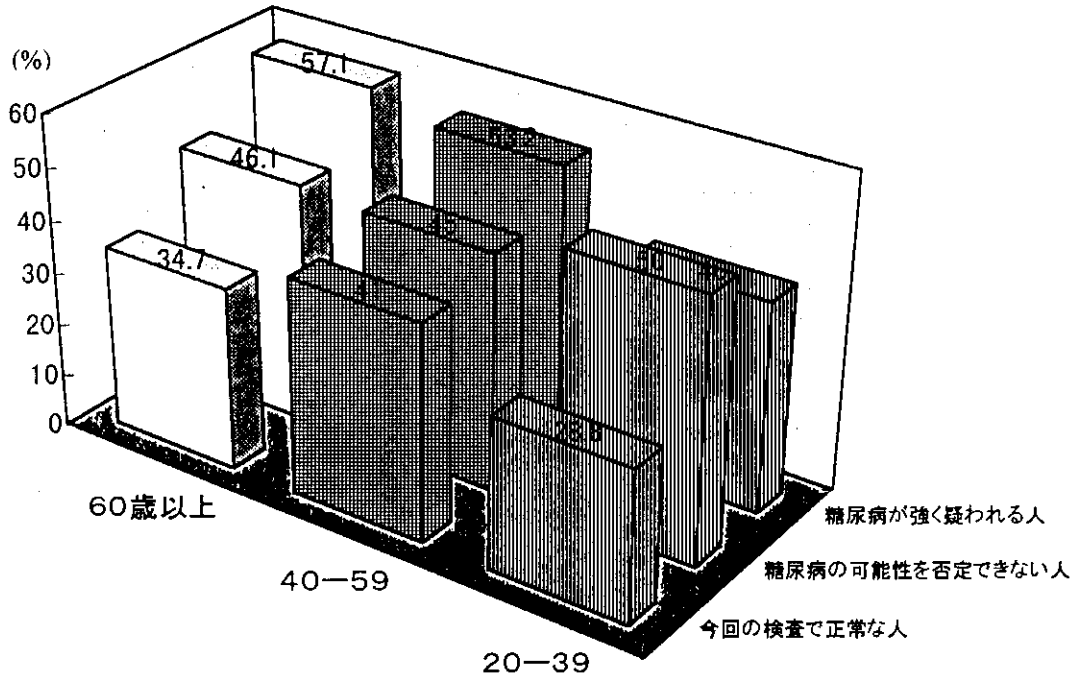
# 女性



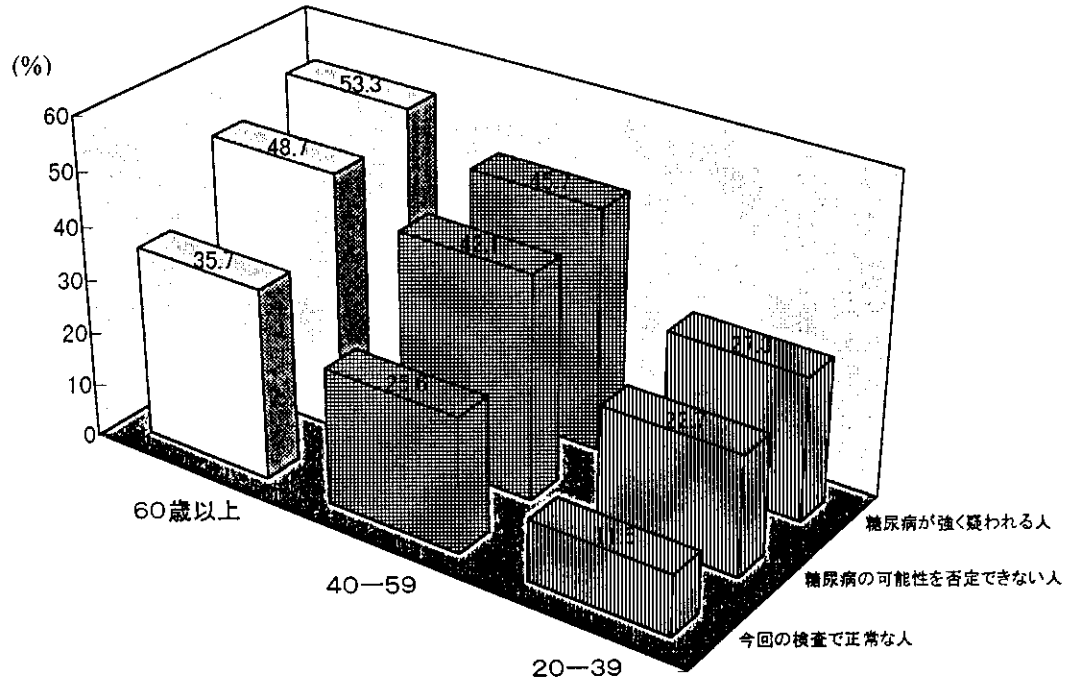
(注：T-CHO 260 mg/dl 以上を高値とした)

トリグリセリド高値者の割合（食後3時間以上）

男性



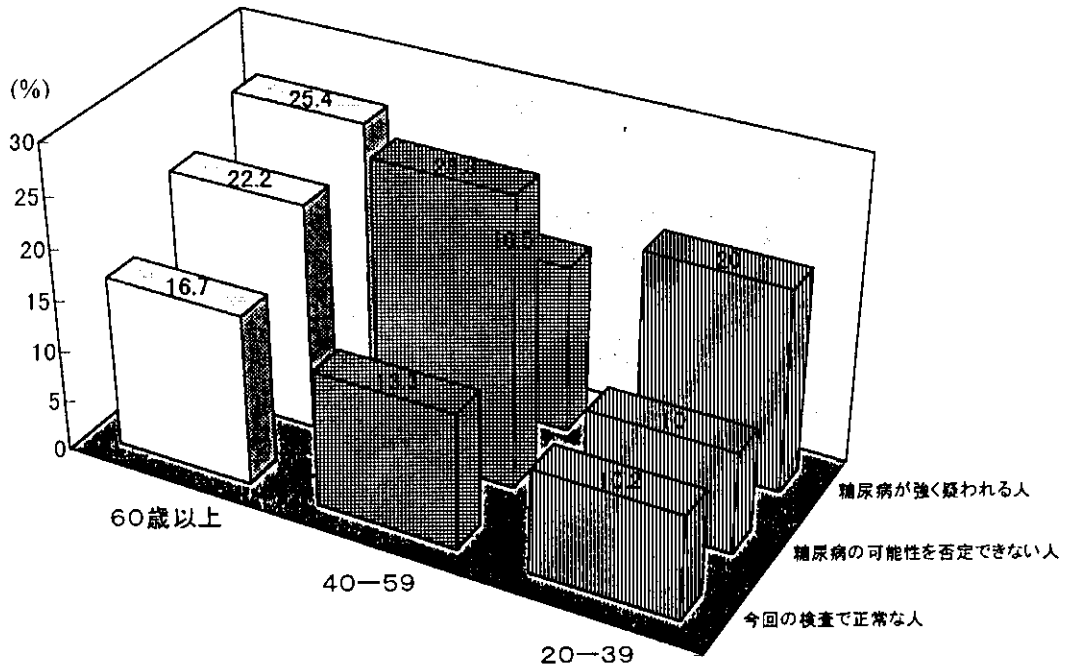
# 女性



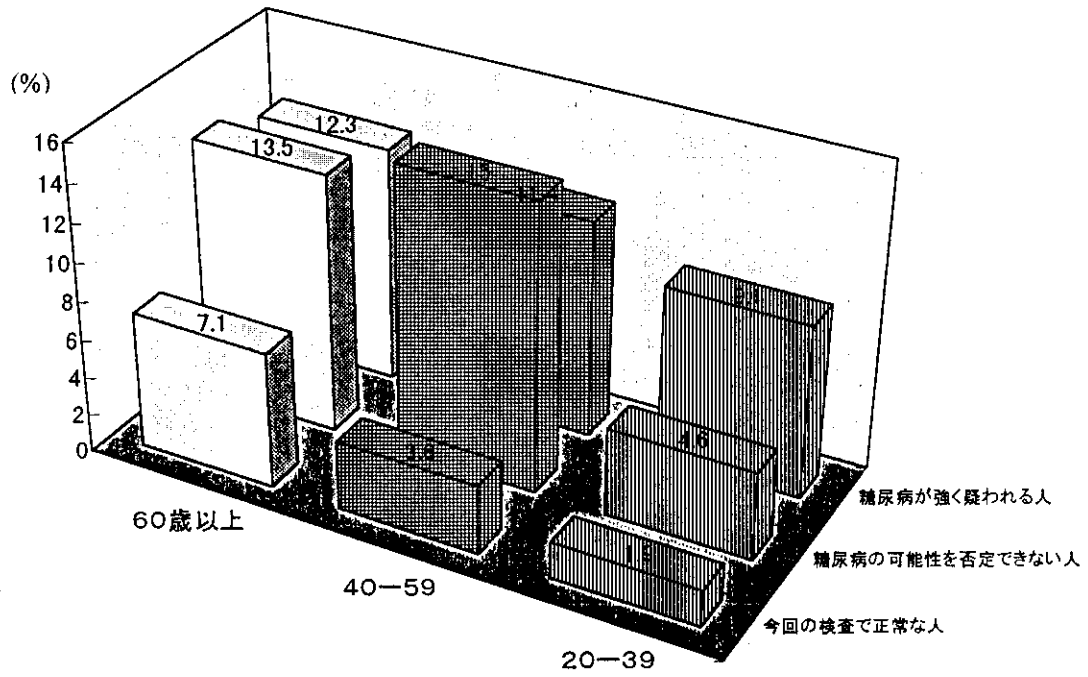
(注：TG150 mg/dl 以上を高値とした)

HDL-コレステロール低値者の割合（食後3時間以上）

男性



# 女性



(注：HDL-CHO 40 mg/dl 未満を低値とした)

## 6. 糖尿病の危険因子

### 6-1. 糖尿病と肥満

現在の体重と身長は、実際に測定した。

過去の体重は、アンケートによって調査した。

質問5. (1) いままで一番太っていたのは何歳のときですか？

(2) そのときの体重はいくらでしたか？

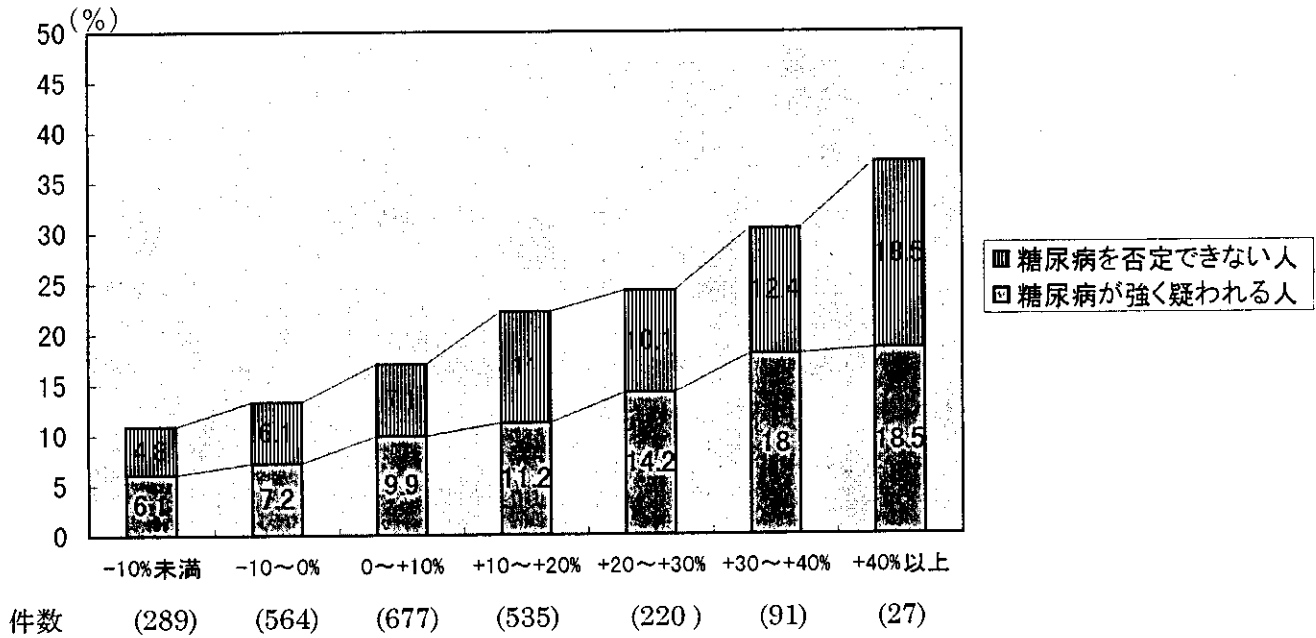
現在の肥満度と糖尿病の状況の関係については、図23のとおり。肥満度が上昇するに従って、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が上昇している。

次に、過去の肥満（過去の最大体重）と糖尿病の状況の関係については、図24のとおり。同様に、過去の肥満度が上がるに従って、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が上昇しているが、上昇の程度は現在の肥満の場合に比べ著しい。



図 2 3 . 現在の肥満度と糖尿病の状況

男性



女性

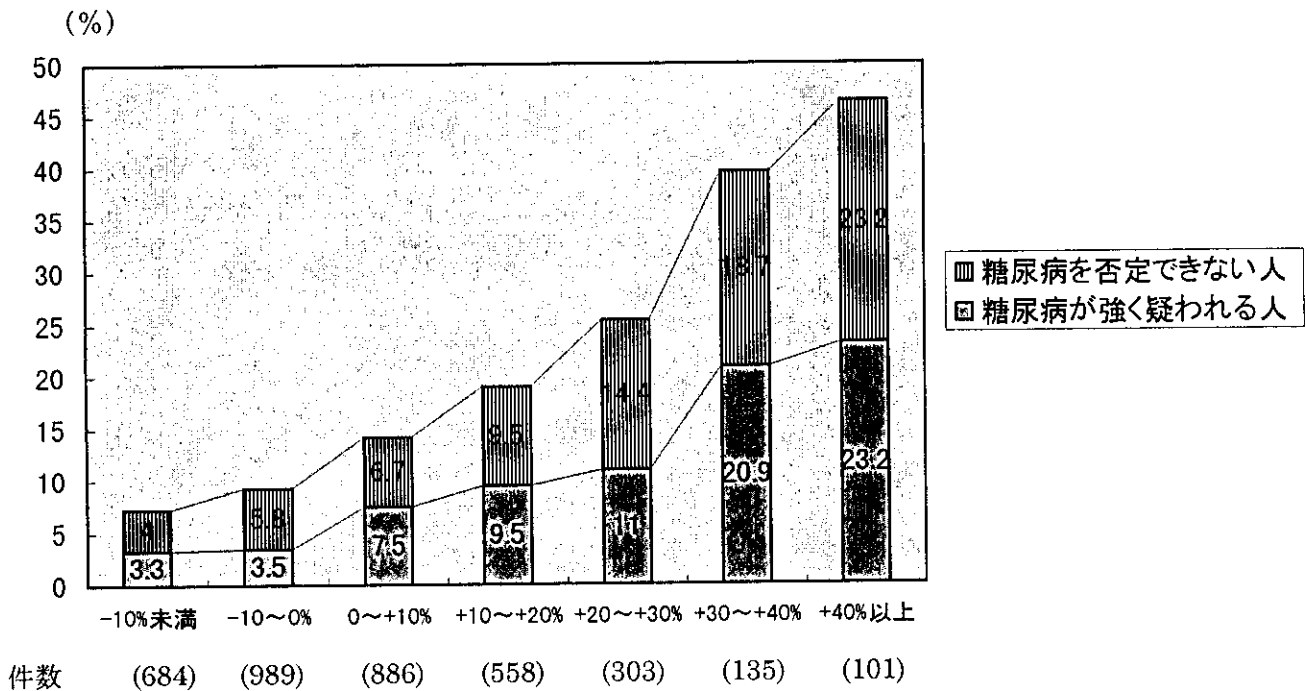
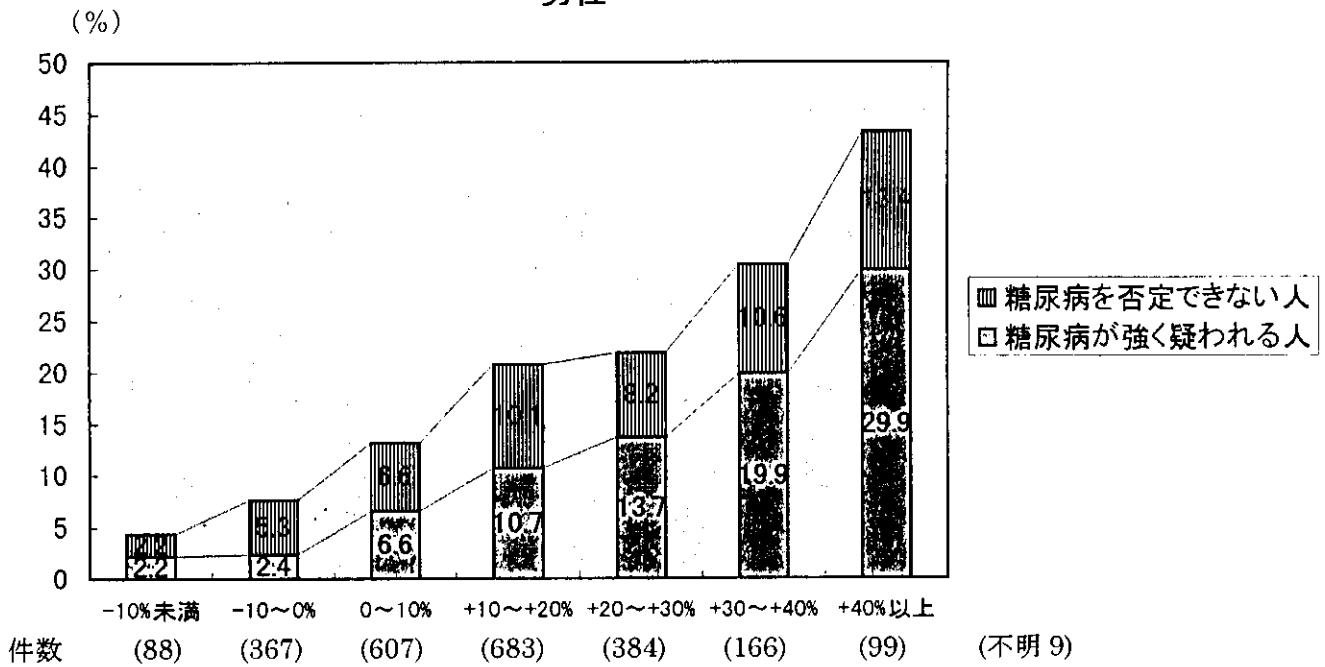
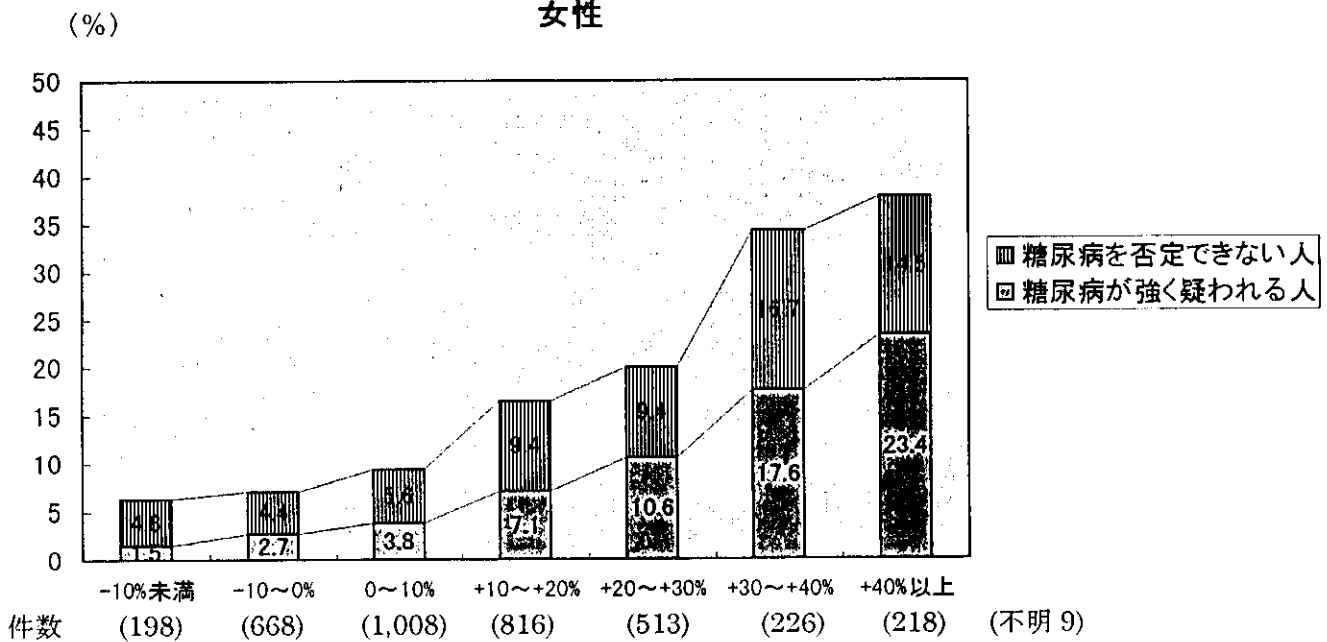


図24. 過去の最大体重による肥満度と糖尿病の状況

男性



女性



## 6-2. 糖尿病と家族歴

質問1. あなたの血のつながった方で糖尿病といわれた方がいますか？

1. いない
2. いる

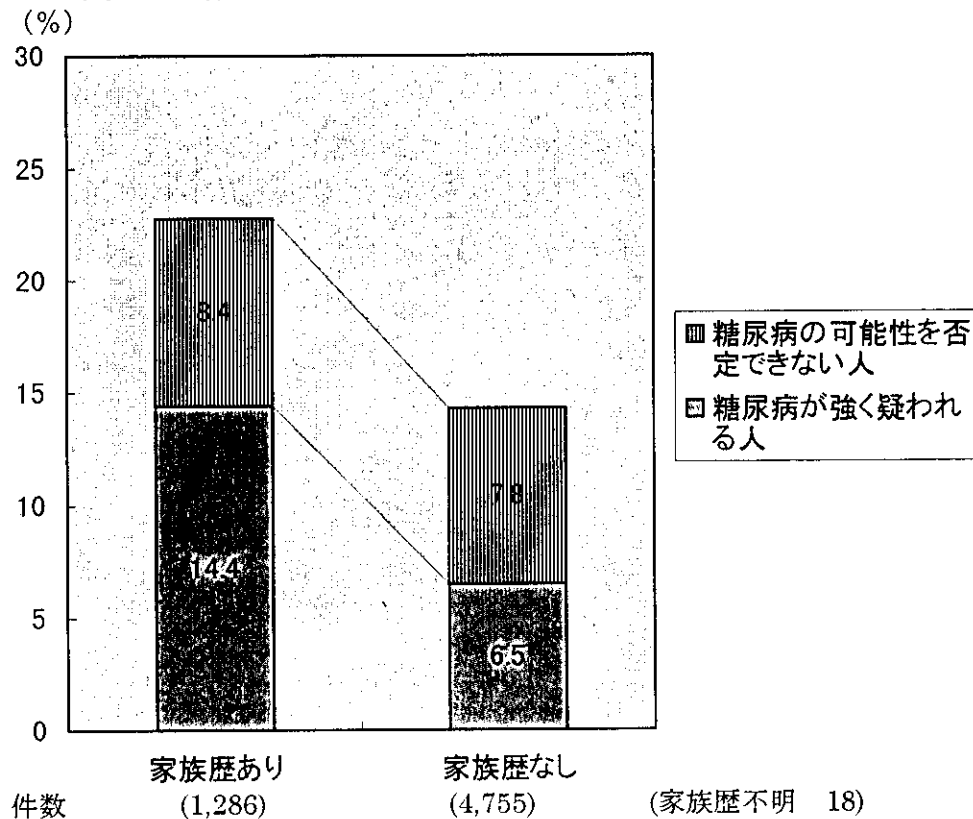
→あてはまる方すべてに○をつけて下さい。

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 父方の祖父
5. 父方の祖母
6. 母方の祖父
7. 母方の祖母
8. その他

家族歴がある人の割合を、  
 「糖尿病が強く疑われる人」  
 「糖尿病の可能性を否定できない人」  
 「今回の調査で正常な人」

の3つのグループで比較したところ（図25）、家族歴のある人の方が「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が高い。

図25. 糖尿病の状態と家族歴



### 6-3. 糖尿病と歩行

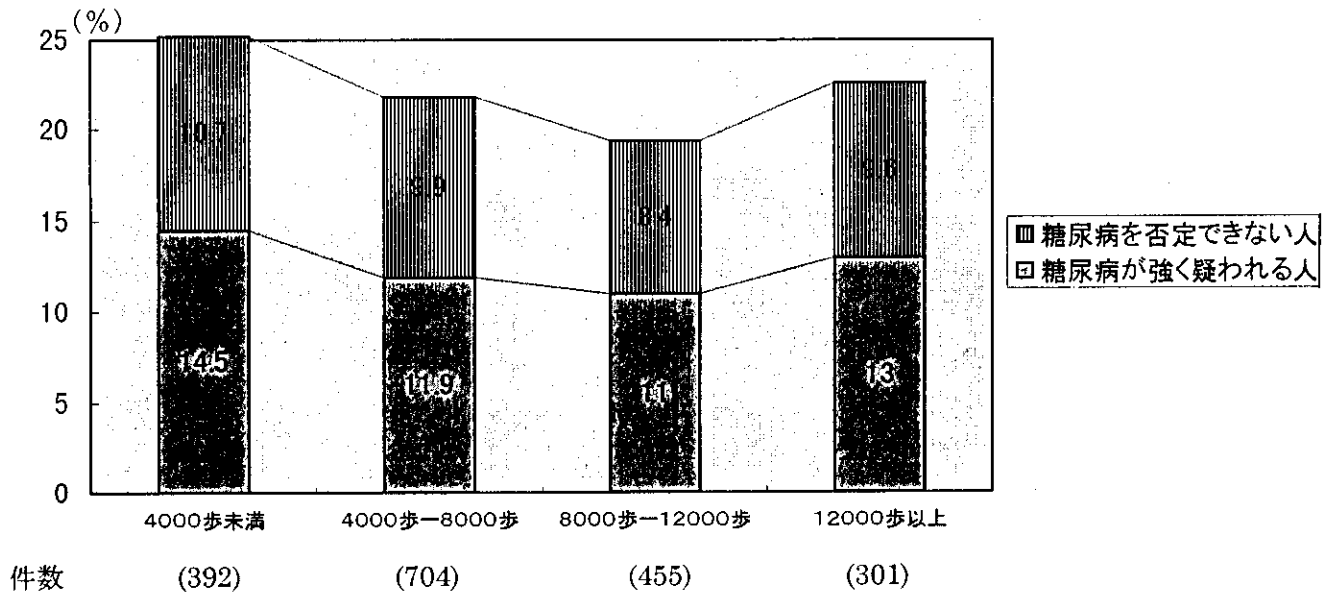
1日の歩行数については、国民栄養調査の身体状況調査票による。

1日の歩行数の割合を、  
「糖尿病が強く疑われる人」  
「糖尿病の可能性を否定できない人」  
「今回の調査で正常な人」

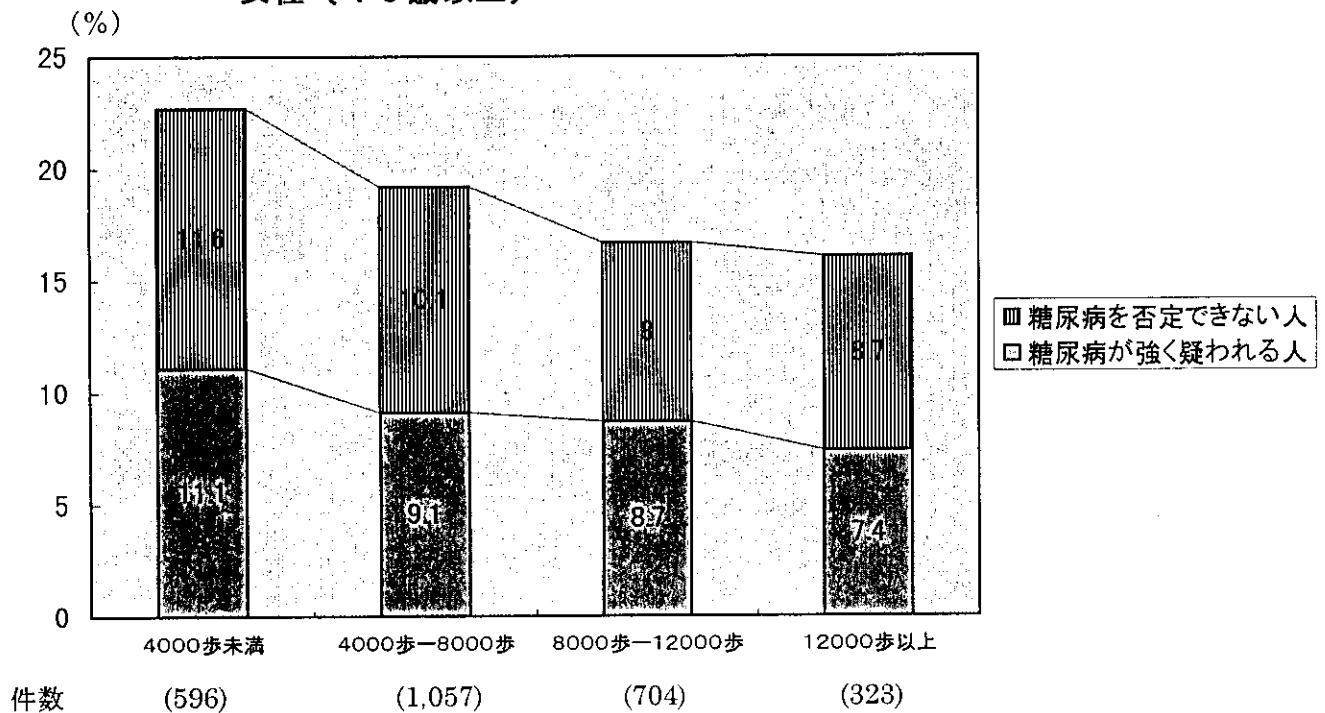
の3つのグループで比較したところ（図26）、40歳以上の男女ともに、1日の歩行が4000歩未満の人で、「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が高い傾向がみられる。

図25. 歩行と糖尿病の状況（性別）

男性（40歳以上）



女性（40歳以上）



## 6—4. 糖尿病と運動習慣

運動習慣の有無については、国民栄養調査の身体状況調査票による。

1回30分以上で、1週間に2回以上運動を行い、これを1年以上行っている場合「運動習慣あり」としている。

運動習慣がある人の割合を、

「糖尿病が強く疑われる人」

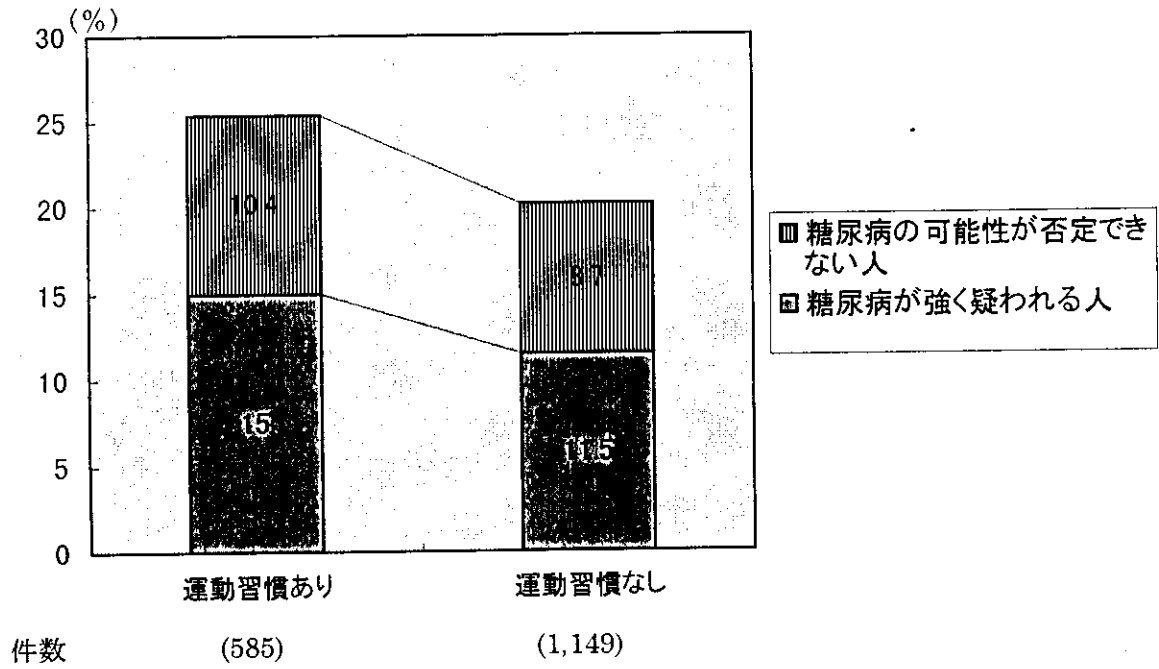
「糖尿病の可能性を否定できない人」

「今回の調査で正常な人」

の3つのグループで比較したところ、40歳以上の男女ともに、運動習慣のある人の方が「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合が高い傾向がみられる（図27）。

図28. 運動習慣と糖尿病の状況（性別）

男性（40歳以上）



女性（40歳以上）

